

【2. フィンランド国立技術研究所・プロセス研究部門の周辺】

“オタニエミ”地区



【3. 習慣】

- (1) 休み好き； 9~16時の約7時間勤務が普通。7月は殆んど休まれる（夏休みは6月末からと異常に早い）。前線の教授先生でも1-2ヶ月の夏休み。
- (2) お茶好き； 9時と14時にコーヒータイム。 コーヒーメーカー10個くらい満タンにされる。 VTT 福利衛生の一環としてお金を出しているらしい。緑茶を意外とよく飲む。香りが少ない。そのためか、レモン、バニラ、アールグレイとミックスされた緑茶が売られていた。
- (3) 散歩好き； 若手はローラーブレード、お年寄りはカントリースキーのスティックを持って。多少雨が降ろうが、皆いそいそと出かける。気持ちはわかる。散策に相応しい自然がいっぱい（冬なんてちょっとわけ入るだけで、「遭難」しそうになったもの）。

（休んでお茶して散歩する方々をみてひと言） 忙しいと書いて、心が無いとか。自称“努力”で、憂さ晴らしをしてきただけではないのか？優秀の再定義が必要と思った。人が憂えると書いて、優れる。“何”に、憂えるのか、そこが問題だよなえ～。ちゃんと考えんとアカンやろ、高尾よ-。

【 4 . フィンランド国立技術研究所のアウトライン】

VTT = Valtion Teknillinen Tutkimuskeskus (the Technical Research Centre of Finland)

http://www.vtt.fi/indexe.htm

- (1) 2001 年の総取り引き高 ; 2 億 2 0 0 0 万ユーロ (おおよそ 2 4 0 億円) (産総研は約 8 5 0 億円)
- (2) 民間受託と国家予算の割合 (注目 !) ; 民間 7 0 % + 国 3 0 % (民間 7 0 % の内、直接費が 4 5 % で、残りは TEKES から (NEDO みたいな組織))
- (3) 職員数 ; およそ 3 0 0 0 人 (うち、1 0 % が外国人研究者。産総研は ?)
- (4) 営業する技術分野 ; 2002 年 4 月に以下 6 機関に再編 (わりと頻繁に改編するらしい。JFCC か ?)

電子・電気
情報通信
システム
製造技術
バイオ
建築

VTT Electronics
VTT Information Technology
VTT Industrial Systems
VTT Processes (= VTT Energy and VTT Chemical Technology) 高尾の居たところ
VTT Biotechnology
VTT Building and Transport (株セコムからの出向者が居た)
VTT Information Service
VTT Corporate Management and Services

(5) 高尾の滞在していた研究室 ;



エスコ・カウピネン (Esko Kauppinen) , 教授 (国研だが、PhD 発行機能を持つため) , エアロゾル工学研究グループ
おもな研究は、 “ 液体 粉体プロセス ” による 特殊な形状 の粉の製造や、その 過程 を解明する。

2. 目下、大部分の人員をさいているネタは「喘息治療用の粉」と「カーボンナノチューブ (SW) 」

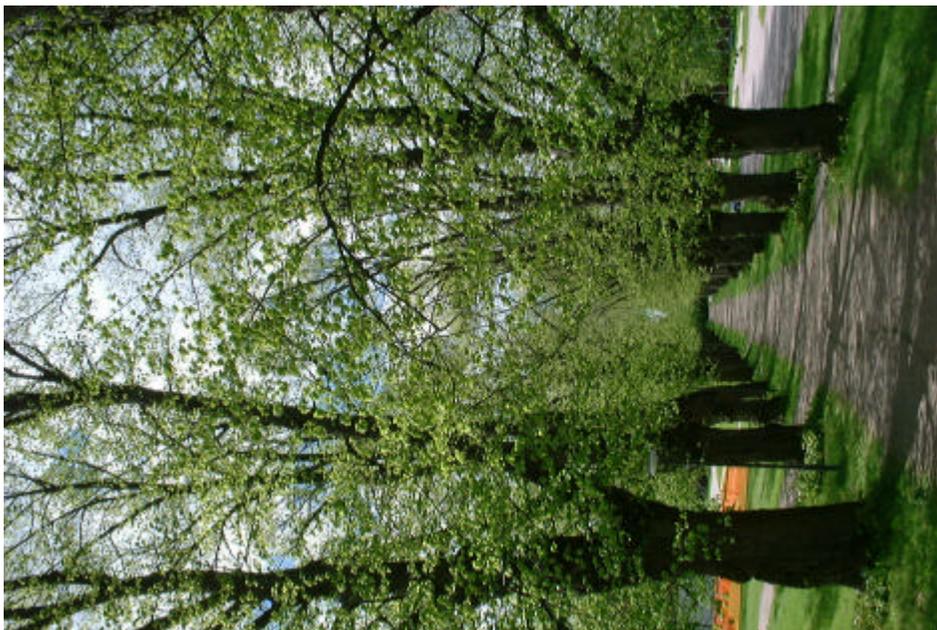
「 Orion Pharmacy 」 という、喘息薬では世界でそこそこの地位を持つ会社から受託中 (喘息、荒い ?) 。
VTT のことを「 Our company 」と呼ぶのが印象的だった。

高尾は、上記 1. の (いわば) 遊撃部隊として、
粉のモルフォロジーの検出技術で、連名論文を書いたり (“ バーチャル篩い ” 、とか) 、
「 喘息治療用の粉 」 の新しい作り方として、セラミックス分野で使われていた「発泡」技術を提案して成功したり、
安い薬剤原料の卸元 (ゾロ屋さん、と呼ぶ) を紹介したり (これは、苦労した...) 、
粉の付着力や、静電気評価の手配をしたり、
神戸学院大学の市川先生を招聘、講演会を主催したり (ホテルに泊めて貰い話した) 、
教授が 4 月に日本訪問すると言うので、

田辺製薬、山之内製薬、岐阜薬科大学、名城大学、東京農工大学、セイソク企業、東京ビッグサイト粉体展
のアポから、チケット・ホテル手配と、「トラベルエージェント」、をしてきた (笑) 。

VTT の居室は「 2 人部屋 」方式 (カウピネンはんは、教授なので 1 人で使用)
バックの白い紙にマジックで書くのが打合せの流儀 (高尾検討中の中空粒子が描かれている)

【5. 写真】主に5/19ペンテコステ（聖霊降臨祭）に撮影；イースター（今年は3/31）から40日目のキリスト昇天日、そこから10日後の使徒に聖霊が降りた日。



白樺の並木道。登りきった所に化学工学部門の建物が在る。



白樺に囲まれた化学工学部門ビル。兎やリスがいつも走っている。



近所の VTT 中央ビル（祝日なので、冠を着け後ろ足で立ち上がった黄金の獅子が描かれた公式国旗が掲げられている）



中央ビルの3月頃の様子（1月頃は道が判り難いほどで、写真撮影不能）

タピオラ（ヘルシンキの衛星学園都市のエスボー市、その中心部。）



首都のベッドタウンと思えない「環境のよさ」に感じ入りました。



「ストックマン」中心的なデパート&スーパー
(松坂屋+ダイエー...丸栄か?)



毎土日に通い倒したスイミングホール。フィンランド式サウナが併設されて、水泳(冷) サウナ(温)とやる、らしい。



3月頃。スイミングホールの前の池が凍り、近道ができる(笑)。

エスボー市 ~ ヘルシンキ南岸まで (フツの場所が、きれいで、「雰囲気」がなんかあった。)



ノキア本社ビル。エスボーとヘルシンキの間にある。
(このへん吹き曝しで、2 3月ごろは“芯から凍えて”長居はできなかった)



ヘルシンキ南岸のカイボプイスト公園。
高級住宅街でもあり、自家用クルーザーで“ちょっと散策”って感じ。



カイボプイスト公園の陸側には、自家用ヨットが、ズラーと並ぶ。



車道と「自転車/歩行者道」。水平以外に、立体的に分離されて設置。
(歩道がかけ離れた場所にあり、迷うこと、しばしば。)

ヘルシンキ市内（首都の休日でこんなモン?ってくらい、人が少ない印象をもった。）



ヘルシンキ名物・大聖堂。12/6 独立記念日には大統領が演説する。
(行ったときは、結婚式がひらかれていた)



着いた早々の1/3(日)に撮影。14:00なのに日が暮れかかっている。



メインストリート/マンネルヘイム通り。マンネルヘイム大統領(元帥)騎馬像。大戦中は神出鬼没の戦術でソ連から「白の悪魔」と呼ばれ、独立を守った英雄。



南岸の朝市とウスペンスキー教会(北欧最大のロシア正教教会)
朝市は、土日は開かれないのだが、休日なので開催中。

ヘルシンキ市内（基本的に、建物が密集してなくて、緑が多い印象をもった。スカスカ、って感じ。）



国鉄の中央駅。てっぺんの時計は離れていても見えるくらい、周りに高層建築が少ない。必要が無いのだろう。



国立博物館。ロシア大公国時代の教会でクマの紋章入り。着いた早々の1/3(日)に訪ねた。日本のお札が展示されていた。



国会議事堂。同じく戦前のそのまま。14本の柱が印象的。（「こんなに修飾が要るの？」てくらい、どの建物も飾りが多い。日本人的な発想だろうな）



大統領官邸など。16世紀以来の建物が並ぶ中心・エスプラナーディ公園。7/7に「バルト海の乙女像」前で待ち合わせして『カッペリ』で食事した（堀田さんとだけ）

市内をチンチン電車が走っている